

[資料]

アメリカ合衆国におけるキャリア教育とスクール・カウンセリング(2)
—カリフォルニア州におけるスクール・カウンセラーの活動の実際—

Career Education and Counseling in the USA (2): School Counseling in California

後藤和歌子 Wakako GOTO (福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻)	伊藤満美 Mami ITO	泉徳明 Noriaki IZUMI	矢野知子 Tomoko YANO (福岡県障害者厚生相談所)
小泉令三 Reizo KOIZUMI	納富恵子 Keiko NOTOMI	西山久子 Hisako NISHIYAMA	脇田哲郎 Tetsuro WAKITA (福岡教育大学教職実践講座)

(2017年1月31日受理)

2016年(平成28年)2月24日～3月3日、アメリカ合衆国ミズーリ州及びカリフォルニア州にてガイダンス・カウンセリングやスクール・カウンセラー(SC)養成等について視察を行った。本報告ではカリフォルニア州のスクール・カウンセリングや学校での実際の取り組みを中心に報告を行う。2つの小学校と1つの中学校及び1つの高校の訪問から、これらの学校ではキャリア教育が学校教育のなかにしっかりと定着していることがわかった。また、そこでSCが果たす役割が明確になっていて、SCの修士課程での養成も実務面が重視されている様子がうかがえた。これらをもとに、わが国の今後の支援の進め方について考察をおこなった。

キーワード：スクール・カウンセラー ガイダンスカリキュラム システム支援 個人プランニング
MEAP (Migrant Education Advisor Program)

2016年(平成28年)2月24日(水)～3月3日(木)に、教職大学院院生6名と大学教員4名が、アメリカ合衆国(以降アメリカと略記)の2つの州を訪問し、スクール・カウンセリングやスクール・カウンセラー(以後SC)養成等について視察を行った。本報告では、2番目に訪問したカリフォルニア州での研修について報告を行う。なお、全旅程及び訪問した学校の概要は、本報の最後に資料として示した。

1 カリフォルニア州における取り組み

Migrant Education Advisor Program (MEAP) は、Title 1 (U.S. Code: Title 1) という連邦法をもとに運営されている。これにより、対象となる子どもや、その家族に支援が行われるという仕組みになっている。これは、1965年に施行されたもので、他国からアメリカにきた日から3年間この支援が受けられるというものである。当初は、8,000名の子どもが対象であったが、現在は、2,600名に減って

きている。

詳細を述べると、3～21歳が対象であり、家族と共に木材関係や農業関係の仕事に従事している者の子ども、又はそれらに従事するためにアメリカに3年未満前に来た子どもでなければならない。具体的には、花を生産するために来た者の子どもは対象になるが、花を生産するのを手伝うために来た者の子どもは対象にはならない。家族の仕事を手伝うことが多いため、進学や学業等にモチベーションがもてないという課題がある。また、他国から来ているために、経済的安定が保障されなかったり、言葉や文化の違いに戸惑ったり、教育が断続的になることによって貧困というサイクルにはまってしまうということがある。さらに、母語が英語でないことによって、本来は能力があるにもかかわらず、英語を母語としない子ども向けのクラスに所属してそれで終わりということや、テストで不利になるということも起きていた。

それらを解消するためのサービスの一つが、このプログラムである。まず、どのようなニーズがある

のかアセスメントし、初等教育や中等教育の部分を補う。そして、保護者に対して、子どもにどのように支援を行えばよいのかというアドバイスを。命に関わるような急を要する場合には、非常時に対応できる予算がある。日本と同じように、幼稚園や保育園に行かせる就園は義務制ではない。しかし、その影響がずっと続かないようにするのも、このプログラムの役割の一つである。たとえば、通常は動物園に行くという経験をし、その中で様々な力を習得する子どもたちであるが、それができない子どもにもこういう力が不足しないように教育が施されている。

1996年からは、Migrant Education Advisor Program(MEAP)が制定された。保護者の中には、初等教育課程も終えていない人がいる。そういう保護者は、自分の経験上そこまでしか子どもに関わろうとしないことが多い。MEAPは、その悪循環を防ぐために、保護者が同じような立場の高校生にアドバイスをするというものである。その結果、1960年代、途中でドロップアウトし卒業することができなかった子どもが90%いたが、現在は80%卒業することができるようになっている。

2 初等中等教育におけるプログラムの実際

(1) Roseland University Prep Charter School

アメリカにおけるチャータースクールとは、親や教員、地域団体などが、州や学区の認可(チャーター)を受けて設ける初等中等学校のことであり、公費によって運営される。州や学区の法令・規則の適用が免除されるため、独自の理念・方針に基づく教育を提供することができる。設立の背景として、人種や所得階層の住み分けなどの地域間格差の問題、基礎学力の低下による学力格差の拡大、薬物・暴力・ドロップアウトといった学校の荒廃などが挙げられる。1991年にミネソタ州で設置を認める法律が成立し、翌92年に同州で全米最初のチャータースクールが設置されたことを皮切りに、2013年には6,000校を超えるチャータースクールが設置されている(寶來, 2015)。

Roseland University Prep Charter Schoolは、ソノマ州立大学とのパートナーシップの下、2004年に78人の生徒と4人の教師とともに設立された。2016年現在では、450名ほどの生徒と40名ほどのスタッフで構成されており、入学希望のウェイティング・リストがあるほどである。生徒の実態に目を向けると、そのほとんどがスペイン語を母語としており、4マイル四方の地域から通学して来る。90%

近い生徒が給食費の減額措置を受けており、決して経済的に恵まれているとは言えない環境にある。また、家族の中に高卒の者が誰もいないという生徒も多く、大学に進学する環境になかった生徒たちであるが、2015年の卒業生の97%が2~4年制大学へと進学しており、非常に高い進学実績を有する。

①ガイダンスカリキュラム

Roseland University Prep Charter Schoolの時間割は、月曜日が1単位時間43分を基本とする8コマ、火・水曜日を通して79分を基本とする8コマ、木・金曜日を通して91分を基本とする8コマと変則的である。これは、生徒に身につけさせたい能力と連邦政府・州政府の求める基準に合わせるための配慮である。生徒に確かな学力を身につけさせるために、授業時間が終わるまで教室から出さないという規則を徹底している。学校の目指す最終的なゴールとして、高校卒業時点で次の進むべき方向が明確になっていることや、4年制大学の入学資格が得られる単位取得などが挙げられており、そのために必要なカリキュラムの選択においては、SCが常に生徒をサポートしている。

②個人プランニング

より高度な学習を希望する生徒に対しては、社会的・経済的に不利な立場にある生徒を対象にした大学進学のための準備プログラムであるAVID(Advancement Via Individual Determination)プログラムが提供され、生徒の様々なニーズに応じている。その結果、全米平均で51%の大学進学率に対して、97%もの生徒が2~4年制大学への入学を果たしている。

③事後対応型サービス

Roseland University Prep Charter Schoolにおいては、IEP(個別支援・指導計画)に基づいた教育を受けることができる生徒が全体の10%に上り、そのうちの90%が必要な支援を受けている。年度当初に、標準学力テスト・生徒指導記録・出席などの情報をもとに生徒の状態を把握し、対象となる生徒に対しては週に2、3回取り出しによる指導を行っている。

④システム支援

個に応じた支援を可能にするために、校内には対策チームSST(Student Service Team)が整備され、管理職、SC、進路支援担当、スクールナース、外部の支援員らによるチーム支援が行われている。また、職員研修も充実しており、2週間に一度の継続的な研修や、様々なレベル(学区レベル、学校レベル、教科レベル、小グループ等)の会議が行われ、システムティックな情報共有の仕組みが整っている。生徒

に関わる様々な情報を全体で共有することにより、きめ細かいサービスを提供することができている。

⑤考察

生徒たちは、この学校のことを「第2の家（ホーム）のようだ」と評している。このような生徒による評価の背景には、教師をはじめとする学校のスタッフの在り方が関係していると Reese 校長は述べていた。教師の友好的な態度や、親・看護師のようなケア、教師による生徒への直接的なサポートなどが、生徒に安心感を与え、すべての生徒にとって学校が居心地の良い空間になっている。学校のイメージカラーである紫で統一された校内のあらゆる場所に、卒業生の顔写真と進学先が掲示されていた。どの顔も自信にあふれた、よい笑顔であった。Reese 校長は、こうも述べていた。「この学校は愛であふれている」と。その愛は、決して感情のみに留まるものではなく、一人一人の実態に応じたきめ細かいサービスとして生徒に提供されているキャリア発達の促進である。その結果として、地域・保護者の学校に対する信頼は厚い。今後も、独自の理念・方針に基づく教育の実現を目指して、このチャータースクールは存在意義をさらに高めていくことであろう。

(2) Roseland Creek Elementary School

4年前に創設された新しい学校である。現在、530人の子どもが在籍している。急な訪問であったが、校長と SC が丁寧に対応してくださった。

Roseland Creek Elementary School には、担任の他に、司書、特殊教育のスタッフや IEP を管理する人、言語セラピスト、コンピューターアシスタント、生徒指導主任 (Student Service Manager : SSM)、学生サポート、アートセラピスト等がスタッフとしている。

①ガイダンスカリキュラム

他の地域では、校長の権限が非常に強いが、ここ Roseland Creek Elementary School では、学区全体の方針に従って動いている。この方針を、どのように実現していくのかを、地域と共に考え、実践していくという形をとっている。

保護者に対しては、SSW が Family Advocate となるなどして、特別なニーズがある人々が集まっている取り組みをしたいと校長は述べていた。

校内では、カリキュラムを組んで実践を行っている。例えば、入学当初は、気持ちの表現や問題解決のための学習などの取り組みを行っている。小学校段階の取組なので、中学校や高校のように、キャリア教育を明示した取組というわけではないが、日常

的行事や教科学習のなかにキャリア発達を促進させられる活動として、例えば「興味のある職業の服を着て来よう」という日を設けるなどしている。また、SC が提案して、仕事の多様さを理解することができる行事としてキャリアフェアを開催したり、いじめ予防週間を設けたりしている。校長の方針としては、現在は SC が中心となってこれらの取り組みを行っているが、来年からは、Ad hoc Group (ある目的のための臨時的な緊急的なグループ) を作って、教師自身に実践してもらおうと計画している。

②個人プランニング

行事を通して、様々な課題について考えさせている。例えば、10月には、Red Ribbon Week を設定し、アルコールやドラッグについて考えさせる機会を設けている。他にも、仕事について知ったり興味をもったりする機会として行うキャリアフェアを契機に、個々の将来に向けた夢や進路計画を進めるなどの個別のアプローチも並行している。

問題行動があった場合には、問題解決をするための指導やカウンセリングを行う。

IEP をもつ子どもは 20% いる。しかし、校長によると、抱えている課題は非常に複合的であり、背景に特別な支援を要するものを抱えていると感じられるものは、40件程あるとの話であった。

③事後対応型サービス

友達のことや両親の離婚のことなどは、1対1でのカウンセリングや関わりをすることが多い。その他、子どものニーズに合わせて小グループアプローチでの支援も行っている。

[ニーズに合わせ SC 等が行う小集団支援の例]

- New Comers Group : 新しい転校生を集めて学校や生活になじむまでのサポートを相互に行うグループ
- 仲良しスキル : 対人関係に課題を持つ子ども向けのソーシャルスキルトレーニング
- Banana Sprints for Children : 離婚の課題を抱える子どもたち向け相互支援
[登校困難な際に SC が関与する教育上の措置]
- Home Hospital : 一時的に通常の学校生活を送ることが困難な子どもに対し、2週間~3カ月間、学区がカリキュラムや時間を管理しながら、家を病院に見立て個別の学習を行うもの
- Home Schooling : 学区に一人配置されている Home Schooling 担当者が定期的に対象の子どもの家を訪ねて回るというものである。
- Alternative School : より深刻な課題を抱えている子どもは、より小さな環境で学べるように措置される。それによりトラブルが少なくて済む。

通常は、中等教育に多いが、ここでは小学校にもあるとのことであった。

④システム支援

子どもの理解に沿う形で支援を行っている。環境面の工夫として、大学のペナントが教室に数多く飾られていた。これは、大学進学経験のない家庭も多い同地域に生活する子どもへの多様な進路への理解を進めるための意識づけである。また、司書と連携して、図書の本を選定したり、地域との連携を図ったりすることも意識されている。具体的には、前述したキャリアフェアに地域の消防士を招いたり地元で働く人から協力を得たりしている。

⑤考察

SC は全ての子どもに手が届くように配置されている。また、SC の範囲を超えたら外部に委託するという仕組みが明確である。SC が配置されるようになった流れが違うからであろうが、日本は、それに比べて担任が一人で問題を抱えがちであるように感じる。さらに、日本においても、SC は配置されながら非常勤であり、学校に関する知識が十分でないこともあるようである。それ故、教師自身も専門家としてのSCを活用しきれていない実態が存在する。

Roseland Creek Elementary School では、全体への指導が2割で、事後対応が8割ということだった。日本の小学校においては、担任が担う部分が非常に大きいと言われていたが、一方で、担任が予防的な取り組みを行っているということも言えるのではないかと考えた。それは、特別活動という日本独自のカリキュラムが存在し、それを活用できている教師や学校にとっては、全体への指導が事後対応の割合を減少させているのではないだろうか。しかし、児童生徒個々人の課題は様々で、それだけでは対応しきれないところに、SCの必要性や日本独自の課題が隠れていると考える。日本には、まだSCについて、あるいは教育相談や生徒指導等を担当する者の、確立された仕組みや保障がない。これらを機能化させていくためにも、仕組みづくりや制度づくりが必要不可欠であると感じた。

(3) McDowell Elementary School

幼稚園から小学3年生までの子どもが対象の学校である。来年度からは、幼稚園から小学校6年生までを対象にした学校になる予定である。これまでの幼稚園児より1学年前の年齢の子ども（小学校の準備段階の子ども）を受け入れ、小学校への移行がスムーズにいくような試みを行う。その中で、ソーシャルスキル等の習得のための事前準備をしてい

くようにする。これまで、学びの環境が細切れになるという課題があったが、学びの環境を大きくすることで、よい学校の風土づくりを目指している。そのために、ソーシャルスキルやライフスキルを高めていくようにする。

このように、McDowell Elementary School では、子どもが安心して学習できるような環境を整えることを大切にしている。そのために、必要があれば、朝食を提供したり、カウンセリングを行うなどして、子どもが学習に向かう援助をしている。こうした援助は、マズローの欲求の5段階説の考え方に基づいて行われている。基本的に必要な「読み」「算数」については、必要に応じて能力別に指導する「ラーニングセンター」を設置し支援を行っている。

①ガイダンスカリキュラム

「TOOLBOX」というカルフォルニアでつくられたプログラムを行っている。これは、以前、大工であったカウンセラーがつくったものであり、この名前が付いている。「TOOLBOX」は、各学年、12レッスンで構成されている。気持ちの共有、気持ちの鎮め方など、自分をコントロールできるようにする内容である。カウンセラーだけでなく、教師も指導できるようにつくられたプログラムである。このプログラムは、学区で行っている。同じプログラムを行うことで、学区内では共通の言葉で表現することができ、子どもたちの戸惑いがなくなり、適応しやすくなる。

「TOOLBOX」については、カウンセラーが教室に入りプログラムを行っている。1レッスン終了後、子どもたちは学んだ内容のカードをボックスの中に入れ、いつでも振り返ることができるようにしている。12レッスンが終了した後、教師からの要望などがあれば、カウンセラーはクラスに入りプログラムを行う。

②個人プランニング

学習に困難を抱えている子ども、発語に困難を抱えている子ども、問題行動のある子ども、集中することが難しい子ども、自分で判断することなどが苦手な子どもたちについては、特別支援学級の教師がその課題に応じて指導する。普通、子どもは通常学級で学習をし、必要に応じて特別支援学級で学習する。個別の教育支援計画（IEP）を作成し、一人一人バインダーにとじて保管している。「保護者から要請があったときは、60日以内に対応する」という決まりが国で定められている。

③事後対応型サービス

カウンセリングルームでは、保護者の希望や教師からの依頼で、個別のカウンセリングを行っている。

SCのサラ先生 (Ms. Sarah Fleming) は、臨床カウンセラーの資格もある。学校の一角に専用のカウンセリング室があり、そこには、箱庭や子どもたちと抵抗なくコミュニケーションを取るための人形等が備えられていた。箱庭療法は効果的であり、子どもが抱えている問題について聴き、対応している。保護者からの相談なども受けている。問題が深刻な場合は、外部の相談機関との連携も行っている。

④システム支援

「TOOLBOX」のプログラムを推進するために、SCのサラ先生が他の教師に研修を行ったり、若い教師には実際に見せたりして、理解の促進を図っている。学区全体でこのプログラムに取り組んでいるので、学区内で教師が移動しても、プログラムは共通理解されている。カリフォルニア州では、小学校へのSC配置は義務づけられてはいないが、この学区ではプログラムの導入にあたり、国から1億円の予算を得て、全ての学校に常駐SCが配置された。このプログラムを行うことで、問題行動が減ったことを教育委員会へ報告し、継続して行うことができている。

⑤考察

「TOOLBOX」というプログラムを学区全体で取り組んでおり、カウンセリングのプログラムが小学校段階にもしっかりと根付いていた。これは、教育委員会が理解を示し、予算を組んでいることで、SCが常駐し、このプログラムを主体的に推進していくシステムができているからだと思われた。SCのサラ先生は、臨床カウンセラーの資格もあり、子どもの個別の相談や保護者の相談も受けていた。SCが、学校生活全体の子どものための支援を行う中心になっているように感じた。

個別の支援が必要な子どもたちに対しては、特別支援教育担当がIEPを作成し、個に応じた支援を行っていた。また、保護者への説明については、英語を理解することが難しい保護者に通訳をつけるなどして、便宜を図っていた。

「TOOLBOX」プログラムで子どもたち全員を対象にクラスガイダンスやカウンセリングをするなど、1次的援助サービスレベルの対応を行いながら、個別のカウンセリングや個別の学習支援を行うことで、手厚い教育が行われていることは、カリフォルニア州の特別支援教育における優れた点であると考えられる。

(4) Altimira Middle School

Altimira Middle Schoolは6年生から8年生までを対象とした3学年で構成されている。558名

の生徒を、William Deeths校長のもと、25名の教職員で担当し、教職員と生徒の比率は1対19名である。

学業成績指数 (API) は、1000点満点のところ732点が学校の平均であり、カリフォルニア州が目指す800点および州平均792点には大幅に届いていない。

①ガイダンスカリキュラム

SCは予防教育として日常的な活動を行っている。主に、教員からの要請や相談から介入を始めることが多く、保護者の相談や生徒本人からの自己申告での対応も可能とのことである。

また、学力保障のために、スタッフ支援や家庭支援、子どもの学校適応のための多様な介入を行っている。

クラスへの予防・開発的指導は来年度から始める予定である。訪問した2015-16年度は、唯一のSCが、養成課程を経て赴任したばかりであり、生徒・教員・管理職のニーズを把握することと、優先順位に基づき、2次、3次支援の事後対応型サービスに重点を置いている。

②個人プランニング

SC, SP (スクール・サイコロジスト), インターン3名, 実習生4名による様相観察と、担任からの要請や相談からアセスメントを開始する。特別支援教育を必要とする生徒のアセスメントツールとしては、WISC-Vなどを利用している。

③事後対応型サービス

面談により、各自の学習パターンを調査し、結果に合わせて学習支援を中心とした個別支援サービスを行う。各自の進路に合わせ、どのような学習スキルが必要とされるかを見極め、個別の学習・進路計画を構成する (Study Skill Group)。また、特別支援教育においては、個別のアセスメント結果に加え、アセスメント会議を経て対象者を決定している。現在は70名が抽出授業を受けている。抽出授業とは、全員が通常学級に在籍するが、生徒が各自決められた時間に特別支援教室に移動して受ける形式であり、特別支援教育担当の教員が、特別支援教育の専用教室で、読みと数学を中心とした授業を行っている。

④システム支援

SP1名, SC1名が常勤している。週に1回、小学校のカウンセラーとの打ち合わせをしている。その他、学期末に地域の4名のカウンセラーとの会議を行っている。

The Club と呼ばれる留守家庭保育のような放課後のサービスがある。非営利団体による経営で、校

内に建物があり、授業が終わると生徒はクラブに集まり、出席をとって、おやつを受け取り、そこでボランティアの先生から勉強を教してもらいながら宿題に取り組む。さらに、そこで様々な部活動を体験できる。17時50分にスクールバスによって各家庭に送り届けられる。州の補助により、無償で生徒全員がサービスを受けている。

⑤考察

特別支援教室の天井に、千羽鶴が飾られていた。読みの授業で取り上げた日本の折り鶴の本「サダコの鶴」を読み、感動して皆で作ったという話から、複数教科・領域を関連させた総合的な学習が展開されていた。

Altimira Middle School 全体で、保護者が英語を理解できない家庭や低所得の家庭が多く、英語教育を始め、家庭への多様な支援が実施されていた。SP、SC の役割や責任の大小は学校のニーズで決まり、職員や管理職との協働や支援の方法が工夫されていることがわかった。現在の主な支援は学習支援であり、州のテストの分析結果を学校独自のアセスメント結果に照らし合わせて、個別の支援が展開されていた。個別の支援のためには、人材確保が必須でありインターンや実習生の存在、また放課後サービスのボランティアの存在など、多様な人材による支援が行われていた。日本においても、このように、教員以外の多様な教育支援者の確保について推進が可能だと思われた。

(5) Sonoma State University (SSU)

地域に貢献する人材を送り出すことを目指して、カリフォルニア州立大学群 23 組織の一機関として、1961 年に設置された。サンフランシスコから車で約 80km 北に位置する大学である。学部では心理学・教育学・経営学などが有名で、92 領域の学士、16 領域の修士および、1 領域の博士課程からなる。

カウンセリング研究科は、臨床カウンセラー養成トラックと、スクール・カウンセラー養成トラックからなり、いずれも 12-15 名程度を入学定員としている。カリフォルニアでの研修で訪問した SC の多くは、この SSU で SC 資格を得ていた。

SC 養成の夜のクラスを訪問し、養成課程に学ぶ大学院生と交流を行った。彼らは、修了要件として求められる実習を行うため、昼間はインターンとして周辺の小学校・中学校・高等学校等に勤務しており、実務経験が、資格の取得に位置づけられていた。

今回のアメリカの 2 州での研修において、SC を中心とした児童生徒の学校生活の充実や成功を目指す取組の実際を学んだ。訪問した学校では、キャリア教育が土台として根付いた上で、学校教育全体が進んでいるように感じた。SC が学校教育のなかでキャリア教育に関して果たす領域が、教職員にも共通理解されており、そのための修士課程での養成も具体化されていた。カリフォルニアでの学校と、先駆けて訪問したミズーリの学校とでは、SC が果たす役割は必ずしも同一ではないが、少なくとも地域の現状をふまえて、SC の役割が位置づけられ、教育活動全般が構成されているという印象を受けた。

アメリカ視察研修において、より強く一次援助にコミットしたスクール・カウンセリングのあり方を見聞した。この制度を日本に当てはめるのは課題が多い上に、教師が児童生徒をトータルにみる(大野, 2013)という日本の教育の風土に馴染まない部分があると感じる。しかし、目の前に「困っている子ども」・「困難を抱える保護者や教師」がいる状況に対して、より効果的で組織的な取り組みを考える必要がある。さらに、日本の課題として、いわゆる臨床心理士らが務める SC が配置されていないながらも、十分に活用されていない実態がある。大きな枠組みで組織づくりに挺入れが必要だと感じる反面、現場レベルでも、教師として SC と共にできることがあると改めて感じ、今後取り組むべき課題を明確化させる必要性についても考えさせられた。

引用文献

- 寶來敬章 (2015). Charter Management Organizations(CMO)とチャータースクールの関係 高田短期大学紀要 33, 29-32.
- 大野 精一 (2013). 学校心理士としてのアイデンティティを求めて—教育相談コーディネーターという視点から— 学校心理士会年報 5, 39-46.
- TOOLBOX <https://dovetaillearning.org/toolbox/what-is-toolbox/> (2017/1/20 確認)

3 総合考察

資料1 訪問した教育機関の概要

学校名	学校種	校長	所在地	生徒数	職員数	その他
Rock Bridge High School ロックブリッジ高校	高校 9～12年生	ジェニファー・ラクス タッド	ミズーリ州 コロンビア	1896名 (1906名- 2015- 2016)	229名	
Centralia High School セントラリア高校	高校 (9～12年 生)	マット・ス ミス	ミズーリ州 セントラリア	423名 (2016- 17)	44名	公立総合高校
Roseland Univ. Prep Charter School ローズランド大学プレ ップ・チャータースク ール	チャーター スクール 高校 (9～ 12年生)	スー・リー ス	カリフォル ニア州サン タ・ローザ	450名	43名 (専任教員)	ローズランド ボール大学準 備カリキュラ ム(4年制大学 入学準備)
Roseland Creek Elementary School ローズランド・クリー ク小学校	小学校 (幼稚園～ 6年生)	ウィリア ム・ニール セン	カリフォル ニア州サン タ・ローザ	530名	18名(常 勤) Roseland 学区の3小 学校の間で 最も少ない	4年前に創設
McDowell Elementary School マクドウェル小学校	小学校 (幼稚園～ 小学3年 生)	ラウリ・ア ンダーソン	カリフォル ニア州ペタ ルマ	269名	13名	学習プログラ ム「Tool Box」 (学区で実施)
Altimira Middle school アルティミラ中学校	中学校 (6～8年 生)	ウィリア ム・ディー ツ	カリフォル ニア州ソノ マ	558名	25名	学業成績指数 (API)732/100 0点(州平均 792点, 州の 目標値 800点)
Missouri Department of Elementary and Secondary Education ミズーリ州教育局初等・ 中等教育担当	州教育行政 機関	担当: レネ ー・ヨーセ ル, トム・ シュリンパ ート	ミズーリ州 ジェファー ソンシティ			州のスクール カウンセリング に関する方 針を示す教育 行政機関
University of Missouri, Columbia ミズーリ大学コロンビ ア校	大学・大学 院	担当: ノー マン・ガイ ズバズ教 授他	ミズーリ州 コロンビア			研究大学及び スクール・カ ウンセラー養 成プログラム
Stephens College ステファンズカレッジ	大学・大学 院	担当: キャ ロリン・ル ーフ教授, アン・ラン ズ	ミズーリ州 コロンビア			夜間・週末開 講のスクー ル・カウンセ ラー養成プロ グラム
Sonoma State University ソノマ州立大学	大学・大学 院	担当: モリ ーン・バッ クリー教 授, アダム・ ザゲルバウ ム准教授	カリフォル ニア州ロー ナーナートパ ーク			スクール・カ ウンセラー養 成プログラム

資料2 2015年度 アメリカスクールカウンセリング事情視察ツアー 旅程

日時	場所	スケジュール
2/24 (水)	各 出 発 地	11:02 JR 教育大前発, 博多駅経由で福岡空港へ移動 12:00 国内線団体受付カウンター集合 13:00 全日本航空 2144 便 福岡発 14:55 成田空港着 (スーツケースを受け取り) 北ウイング国際線出発ロビーへ 18:10 ユナイテッド航空 138 便にて成田空港発 空路デンバーへ
		12:45 デンバー国際空港到着 入国手続 15:10 デンバー国際空港発 ユナイテッド航空 4777 便 (国内線) にてセントルイスへ 18:12 セントルイス着 Brian Lee 氏と合流しシャトルサービス(MoEX)でコロンビアへ 20:30 頃コロンビア到着, ホテルへチェックイン。到着後夕食をとり解散。コロンビア泊
2/25 (木)	ミ ズ ー リ 州 コ ロ ン ビ ア 他	9:30 ホテルロビーに集合 10:00 University of Missouri, Columbia 到着[Dr.Norman Gysbers, Dr.Bragg Stanley] ミズーリ州のスクール・カウンセリング (①the Missouri Comprehensive Guidance & Counseling Program の組織と運営, ②スクール・カウンセラー教育のスタンダード化 12:00 関係者と昼食会 (大学の Alumni Center にて関係者を招待の予定) 13:30 学校訪問①Rock Bridge High School [Ms. Betsy Jones] 15:30 終了 コロンビアへ戻り, 自由行動 コロンビア泊
2/26 (金)		8:00 ホテルロビー集合。ホテル発 Centralia へ移動 9:00 学校訪問② Centralia High School 11:30 昼食。昼食後, Jefferson City へ移動 14:00 Missouri Department of Elementary and Secondary Education 訪問 [Ms. Rene Yoesel & Mr. Tom Schlimpert] 16:00 終了 コロンビアへ戻り, Country Club of Missouri で夕食会 コロンビア泊
2/27 (土)		9:00 ホテル発 Stephens College へ移動 (タクシー) 9:30 Stephens College から歓迎 [Ms. Carolyn Roof, Ms. Ann Landes] Stephens College School Counselor Preparation Program 紹介 9:45 Boone County Mental Health Initiative: [Ms. Betsy Jones, Ms. Susan Perkins] 10:45 振り返りと質疑応答 12:00 Stephens College にて昼食会 13:00 終了後, ダウンタウンで自由行動の後ホテルへ (タクシー) コロンビア泊
2/28 (日)		8:00 ホテル発シャトルサービス(MoEX)にてセントルイス空港へ移動 11:53 ユナイテッド航空 4811 便にてデンバーへ 13:21/14:20 デンバー着, ユナイテッド航空 733 便に乗り継ぎサンフランシスコへ 16:09 SFO 空港着 エアポートエクスプレスで滞在先へ ロナートパーク泊
2/29 (月)	カ リ フ ォ ル ニ ア 州 ソ ノ マ 郡	8:30 ホテルにて集合。打ち合わせ・ホテル内で SSU での発表準備, 役割確認 11:00 学校訪問③Roseland Univ. Prep Charter School [Ms. Erica Bosque](レンタカータクシー) 13:00 学校訪問④Roseland Creek Elementary School [Mrs. Maria Orozco] 15:00 昼食 (16:00 大学到着, 大学内探索および Bookstore 訪問) 17:15 Migrant Education Advisor Program [Ms. Giselle Perry, MEAP Coordinator] 18:30 Sonoma State University 訪問 [Dr. Maureen Buckley & Dr. Adam Zagelbaum] 授業参観・日本の SC・研究紹介) 20:00 ダリルヤギ先生と会食 ロナートパーク泊
3/1 (火)		8:15 ホテル発 Petaluma へ 9:00 学校訪問⑤McDowell Elementary School (SC:Mrs. Sarah Fleming) 11:00 軽食休憩 (Petaluma Old Town) 12:30 学校訪問⑥Altimira Middle School [Mr.Deeths, Principal, Ms.Marten, SP] 15:00 学校訪問終了。Sonoma Plaza で自由行動 (夕食時に反省会) ロナートパーク泊
3/2 (水)		7:00 ホテル出発 8:00 サンフランシスコ国際空港着 出国手続き 11:10 ユナイテッド航空 837 便 サンフランシスコ空港発
3/3 (木)	国 内	15:15 成田空港着, 17:55 発全日空 2145 便にて福岡へ移動 20:05 福岡空港着 帰国手続後解散